

秋田・藩校明徳館跡
はんじょうめいとくかん

その後は秋田県師範学校などとして利用された。

- 1 所在地 秋田市中通二丁目
2 調査期間 二〇〇一年(平13)六月~一月
3 発掘機関 秋田市教育委員会
4 調査担当者 安田忠市・伊藤武士・中川宏行

- 5 遺跡の種類 城下町跡
6 遺跡の年代 一七世紀~一九世紀
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

藩校明徳館跡は、秋田藩主佐竹氏の居城である久保田城下の内町(侍町)、城の外堀から南に約二二〇mに位置している。調査面積

は約二二〇〇 m^2 である。調査地は一七世紀初め、久保

田城築城に伴う町割の当初から上級家臣屋敷地として

利用され、江戸時代後期の寛政二年(一七九〇)以降

南半が藩校敷地として利用されるようになる。明治維新まで藩校として存続し、



(秋田)

調査の結果、一七世紀初めから一九世紀にかけての遺構及び遺物を検出し、武家屋敷の遺構、藩校と武家屋敷地の境界の堀跡、藩校及び師範学校の建物の一部などを確認した。検出遺構としては建物・柱列・溝・井戸・土坑などがあり、木簡は三号井戸埋土より一点、一一号土坑埋土より一点、表土より一点、計四点が出土した。

三号井戸は調査地南側(藩校・師範学校側)に位置し、一辺九〇cmの隅柱横棟式の井側を組み、深さ約三mある。出土陶磁器から、一八世紀から一九世紀の年代に位置づけられる。一号土坑は北側(武家屋敷地側)に位置し、東西三・六m南北二・三m深さ四五cmの廃棄土坑である。検出層位や出土陶磁器の年代から一八世紀に位置づけられる。表土出土木簡は年代を特定できない。

8 木簡の釦文・内容

三号井戸

(1) 「。□□□□□□□□八□

・「。川□□

一一号土坑

(2) 「。納大豆三斗入与助」

(244)×28×6 051

207×39×10 011

(3) 酒代 入
表土
(155)×49×2 019

(4) 「第一段□□□」
(148)×35×3 081

(1) は板状で下部はわずかに欠損している。上部は平たくし、孔が穿たれている。下部は先端を尖らせている。

(2) は板状でほぼ完形の大豆の付札である。下部は端部が若干削り

により細く加工されている。上部には孔が穿たれている。

(3) は長方形の薄い板状と思われるが、上部が欠損している。

(4) は長方形の薄い板状で、左辺は二次的整形、下部は欠損している。

9 関係文献

秋田市教育委員会『藩校明徳館跡』(11001年)

(伊藤武士)

